



きてんまいた
おもっしよいとこるやけん
"always ready to work and unwind"

さぬきの輪 TIMES 11

さぬきの輪 TIMES 11

目次

- 4 地域おこし協力隊
Outdoor Activity 特集
- 6 高松市塩江地区地域おこし協力隊
相曾 晴香
- 8 東かがわ市地域おこし協力隊 OG
坂本 麻美さん
- 10 地域をつなぐ
香川の職人魂を燃やす人
- 12 協力隊のオススメ香川歩き
- 14 さぬきの輪の活動
- 15 地域おこし協力隊の活動場所

～地域おこし協力隊の活動を中心に、 香川県内で地域活性化に取り組む人々を紹介する冊子～

都会から移り住んで活動する地域おこし協力隊。その活動は様々ですが、皆得意なことや個性を生かして地域活動を行っています。その活動には地域の方々や自治体職員さんの支えがあり、それぞれが協力しあって地域づくりの一端を担っています。

香川県ではどんな活動をしている人がいるのか、この冊子を通してお伝えしています。そして、地域おこし協力隊をより身近に感じていただき、地域おこし協力隊と地域との連携を深めていきたいと思えます。

コロナ禍で地域の集まりや行事、イベントが相次いで中止となる状況が続きました。そんな中でも地域でたくましく、柔軟に活動を続けてきた人々の活動をお届けします。この冊子が地域の活動に興味を持つきっかけとなり、地域づくりを行う皆様の励みになったら嬉しいです。

それでは、さぬきの輪TIMES11をご覧ください。



表紙の写真…中川裕太(善通寺市地域おこし協力隊)

まんのう町地域おこし協力隊

水沼 佑太 yuta mizunuma

愛媛県伊方町出身。東京の大学で農村へ通いながら農業を学ぶうちに、東日本大震災を経験。生き方や働き方を考え、山形県の朝日町へ移住を決意。卒業後は季節ごとの仕事に従事。地元山岳会に所属し、週末は登山道整備や山小屋の管理に携わる。国内外の山を歩き、年間200日以上山に入る生活を6年経験。2019年8月にまんのう町地域おこし協力隊に着任し、アウトドアプログラムづくりにも携わる。2020年より「OMUSUBI HIKE (おむすびハイク)」として香川と周辺山岳を案内している。
「OMUSUBI HIKE」 <https://omusubihike.wordpress.com/>



土庄町地域おこし協力隊

立屋 一美 kazumi tateya

山形県出身。地元の芸術大学を卒業後、東京。メガネ屋の仕事を経て、若手アーティストを支援するアートイベント会社のWEB制作を担当。その後、日本のアウトドアメーカーのモンベルに勤務し、店舗販売とプロモーションツールのデザイン業務を経験。プライベートでも仕事仲間とトレッキングなどを楽しんできたが、仕事中心になっていた生活に終止符を打ち、その後小豆島に移住。2018年12月に土庄町地域おこし協力隊に着任。アウトドアを通じた観光振興をミッションとして活動。現在はモンベルと土庄町の地域連携を中心にアウトドアでの地域活性化に力を注いでいる。
「フレンドタウン土庄町(とのしょうちょう)」 <https://www.fisland-shodoshima.com/>



参加者に喜んでもらいながらも安心安全なハイキングツアーを心掛けています

私はアウトドアを通じた観光振興をミッションとして活動をしています。「フレンドタウン土庄町(とのしょうちょう)」の運営の他に、アウトドアイベントの企画・運営やハイキングマップ等の印刷物作成、WEB・SNSでの情報発信等を行っています。



2021年4月に行われた皇踏山ハイキングについて

皇踏山は標高わずか394mの山です。瀬戸内海に浮かぶ島々やエンジェルロードを望む絶景とパワースポットがたくさん詰まっており、古くから小豆島島民に愛されています。島山でしか味わえない独特の魅力を存分に感じつつ、しっかりと山歩きもできます。今回のツアー定員は7名、一人一人に目を配れるかを考えての定員にしています。山歩きには多く

山を知ることは地域を知ること 地域を知るとは自分を知ること

私はアウトドアを通じた地域活性化をミッションとして活動しています。今年の八月で着任して三年目を迎えます。最初の一年は、地域を知るためにまんのう町の見学ツアー限定の山を登りました。登山を通してその土地の歴史や周辺の食文化、人を知ることができました。そこからその土地、季節ならではのアウトドアプログラムをつくり、地域課題に取り組み地域の方のお手伝いをしたりしています。

アウトドアプログラムについて

地域おこし協力隊としてはまんのう町の琴南地区の山々、活動外では香川県とその周辺を中心にハイキングのガイドをしています。レストランのコース料理のように、その日の天候や気温、季節の花々、人との出会い、そしてそこから生まれる偶発的なものを楽しみながら、その土地の山の味が引き立つよう心がけています。



ガイド中の一コマ。自然観察も行います。木に生えた苔は1年を通して存在しています。

の危険がはらんでいたので、命を預かる覚悟で入念な準備をしています。今回も緊急・イレギュラー時の対策等をギリギリまで行った上で、臨んでいます。

当日、予報通り小雨からのスタート。途中から雨脚も強くなり、コース変更を余儀なくされました。しかし、事前の雨対策と参加者のチームワーク、そして雨のハイキングを楽しむという姿勢にも助けられ、無事に終了することができました。最後に参加者の方から「楽しかった！ぜひ、また参加したい！」とお声をいただき、ホッとしたりと同時に、また喜んでもらえるようなツアーを行いたいと心から思いました。



自らデザインした、ハイキングガイド用Tシャツ。モンベルと土庄町のコラボ仕様。去年のコロナ禍に作成した皇踏山ハイキングマップ。少しでも多くの方に皇踏山の素晴らしさを知ってもらおうと作成。

地域でお世話になっているボランティアグループの皆さん

これらの活動は、地域の皆さんの助けをいただいています。小豆島でハイキングガイド等を行っている、福江富子さんをはじめとするボランティアグループの皆さんに大変お世



お世話になっている大鷹敦代さん。

地域の方々との活動

まんのう町琴南地区で「思いやり弁当琴里」の皆さんと一緒に、お弁当宅配や高齢者の見守り活動を行っています。琴南地区は山間部で、車がないと買い物に行けない場所に独り暮らしの高齢者が沢山住んでいます。そうした人達の力になりたいとお弁当会社の大鷹さんが協力者を募ってこの事業をはじめました。「地域を知るならお弁当宅配」と大鷹さんから誘ってもらったことがきっかけで、時々参加しています。お弁当宅配での交流を通じて、「自分のやっていることが地域とずれていないか」を確認しています。宅配先で色々なことを教えてもらうのも楽しいです。

それから、風呂窯づくりの文化にも触れました。86歳の元風呂窯職人のおじいさんの人生最後の風呂窯づくりをお手伝いし、技術を学びました。60年前から風呂窯職人になったおじいさん。なんと20年ぶりの風呂窯づくりでした。家で寝てばかりだっ

話になっています。特に福江さんは小豆島の山々や草花に大変精通しており、私にとってはとても心強い味方です。新たなハイキングコースの策定やそのコースの整備、ゴミ拾いなども一緒に行いました。



重岩に歩きに行ったときの一枚。福江さんグループのバックアップを受けて、土庄町のハイキングコースを開拓しています。島のあらゆることを親切・丁寧に教えてくださいます。とても楽しい時間です。

任期後の活動について

今現在、具体的なことは決まっていますが、今まで行ってきた活動を引き続き行えるように地固めをしているところです。それと共にデザインに関わる仕事も並行して行っていきたくと考えています。



広告や情報発信用のイメージ写真撮影。(撮影者:小豆島カメラ坊野さん)。撮影場所の選定や衣装準備は自ら行う。



田んぼに囲まれた民家で、薪風呂体験ができる場所。暮らしに近い交流スペースとして開放し、町内外からお茶会やイベントで利用されている。

たおじいさんが毎日作業場に足を運び、完成後もはりきって薪割りをしたそうです。新聞に取り上げてもらったことで、おじいさんの知り合いがお風呂に入りたくと訪ねてきたりしました。

その他、エビアみかど温泉と讃岐山脈縦走イベント、町内の保育園児の野山への案内などを行っています。

今後の活動について

OMUSUBI HIKEのハイキングツアー開催、讃岐山脈ロングトレイル企画、四国のアウトドア交流会、登山から環境問題や山の暮らしに視点向け社会に活かす活動を行っていきます。これらの取り組みに、エコトリズムの考え方を取り入れていきます。ハイカーらしく、困った人に出会った時はそっと手を差し伸べ、その土地に感謝をしていきたいと思っています。毎日山を歩けることが幸せです。

高松市塩江町
SHIONOE

〔高松市塩江地区地域おこし協力隊〕 相曾晴香

着任して3年目の相曾隊員。

塩江の子ども達を主役に町の人達を巻き込んで町づくりにつなげています。今後企画していくという、塩江の自然環境を活かした造形ワークショップや、子ども達の「第3の居場所づくり」についてお話を聞いてみました。



photo by 西川 博喜

協力隊になったきっかけは？

着任する前、静岡県のこどもの体験施設で造形ワークショップなどの企画・運営やデザインを担当していました。そんな中、地域目線でこどもと関わりたいと思っていたところ、地域おこし協力隊の募集を知り、塩江町に移住を決めました。

どんな活動をしていますか？

現在は塩江小中学校の郷土学習支援をメインに、地域行事のお手伝いや里山づくり、塩江の伝統野菜である炭谷ごぼうの保存事業、塩江のPRに関わるデザイン制作などです。

郷土学習支援で何をしていますか？

塩江小中学校のこども達は総合学習の時間に、自分たちの町のことについて学びます。地域の特産物の栽培を経験したり、地域の人と交流したり…その中でも小学六年生の塩江の魅力を外に発信していく授業に、じっくり関わらせていただいています。

昨年度の六年生は、新型コロナウイルスの影響で人足が町から遠のいていく中、人が沢山集まらなくても塩江の温泉の魅力を伝える方法がないか、一緒に考えました。

そこで、「温泉盛り上げプロジェクト」を始動。こども達自身の興味があること・得意なことを活かせるようにアイデアを出し合い、パンフレット、顔はめ看板、お店のPR看板、CM動画の四つのチームに分かれて制作を行いました。



郷土学習支援で工夫しているところは？

こども達から出てくる意見を大切にしています。ついつい「こうしたらうまくいくのに」と大人が手を出してしまいそうになるところを、まずはこども達自身がやりたいことを実現できるように、アドバイスをすることを心がけています。

こども達の表現が町づくりにつながる

「温泉盛り上げプロジェクト」で制作したものは、町内のお店や施設に設置させていただきました。特に、行基の場で展示した、こども達手作りの暖簾がお客さんたちからも好評でした。「こども達が頑張っていることに元気をもらってる」「この暖簾、売って買いたい」など声をかけていただきました。

そんな中、行基の湯の方から「五年生が作った竹あかりも一緒に展示したらどうか」と提案いただき、クリスマス



塩江のこども達への想い

塩江のこども達は、進学や就職で町を離れる人が多いです。郷土学習やワークショップでの体験を通じて、町外へ出た後も「あの時面白い体験をしたな」とか、「町の人があたたかく接してくれた」と思い返してもらえると思うんです。そして、大人になってふと思いついて遊びに来た

相曾隊員がデザインした道の駅の看板。



暖簾もこどもの手作り。

これからやりたいこと
塩江の環境を活かしたワークショップ

り、塩江に戻ってきたりすることがあればいいと思います。

塩江でしかできないワークショップの企画をしたいです。私自身が塩江に移住してきたときに、あたたかい地域の方とのふれあい、土を触ったり、いろんな形の葉っぱを探したりしてものづくりをする体験がとても新鮮でした。自分自身を見つめ直すきっかけにもなりました。街に住んでいる人にとって、自然の中で自分のことを考え直して表現する活動は、とてもリフレッシュ出来るんじゃないかなと思います。

例えば、塩江で採取した素材を使った、絵本づくりのワークショップ。散策して集めた葉っぱや花、様々な材質、色の紙、言葉をカラージュしてサンドイッチのような絵本をつくりま

す。絵を描いたり、文章を書いたりするのが苦手な人でも気軽にできる内容で



photo by 西川 博喜

PROFILE

相曾 晴香 あいそ はるか

静岡県出身。美術大学を卒業後、映像の復元、イラストの仕事、こどもの体験施設でワークショップの企画・運営、小学校向けのキャリア教育などを経験。高松へは芸術関係のイベントをきっかけに何度も来訪するなか、こどもの芸術活動に魅力を感じ、移住を決意。趣味は、音楽鑑賞とドライブ。

【活動内容】郷土学習支援、地域協働事業、情報発信など。

活動開始年月:2018年12月



東かがわ市
地域おこし協力隊OG
坂本 麻美さん

東かがわ市
地域創生課
工藤 功雄さん

NPO法人
東かがわ観光船協会
中嶋 学さん

東かがわ活勢隊
片川 直樹さん

じゃないなど。職員さんや地域の方の存在も大きかったです。

先輩移住者 東かがわ活勢隊 片川さん

片川 坂本さんとは、通訳や活勢隊の主催するイングリッシュパーティーの先生の依頼で関わりを持つようになりました。

活勢隊の目指しているビジョンと、坂本さんの考えが一致したので、坂本さんの力を貸してほしいということになりました。一緒に活動する中で、協力隊自身の人を知ることが大事だと思えます。市が求めている人材と、民間が求めている人材は必ずしも一致しません。ちゃんとビジョンを共有して話ができたらやってみようかと思っています。

坂本 イングリッシュパーティーで活勢隊の方とつながり、そこからプライベートでも遊べる友人ができました。片川さんは岡山出身というところが大きかったです。地域おこし協力隊だからと英語関係のお仕事も無償で依頼されることが多かったんです。そんな中、片川さんから料金表を作るようにアドバイスをもらったり、依頼も市役所をとおすようにしてく

れたりと間を取り持ってくださいました。

NPO法人 東かがわ観光船協会 中嶋さん

中嶋 坂本さんがひな祭りの竹あかりを作っている様子をSNSで見

て声をかけました。寒さが厳しい2月に市役所の外の吹きさらしの中作業していたので可愛そうだと思います。風の当たらない場所を紹介しました。以前塩江の竹あかりを見ていいなと思っていました。道具なども貸し出しました。私はまちが楽しくなるようにつくったボランティア団体「風まちネット」に所属しています。その事務所の庭を坂本さんの作業場に貸し出したことがきっかけで、ひな祭りや「どでカポチャ」のイベントと一緒にやるようになりました。

坂本 中嶋さんは家具職人さんだったので、竹の仕入れや作り方など相談に乗ってもらいました。竹の再利用で竹炭をつくりたいという時も、中嶋さんから竹炭の職人さんを紹介してもらいました。

中嶋 昨年は坂本さんが地域からいなくなってしまうと思っていたので、最後にみんなの記憶に残るようにと、クルーズ船のアナウンス放送を依頼したりと色々なことを企画して坂本さんに手伝ってもらいました。実績を残せばメディアや市のホームページに名前が残るだろうと。坂本さん

[東かがわ市地域おこし協力隊 OG] 坂本 麻美さん

坂本さんは、今年の3月に3年間の任期を終え、東かがわ市に定住。5月に東かがわ市で初のコワーキングスペースをオープンしました。任期中は国際交流や国際協力をミッションとしていた坂本さん。任期後の仕事をどのようにつくっていったのか、お聞きしたいと思います。活動を支えてくれた地域の方や、当時の担当職員さんにもお話を伺いました！



庭にはピザ窯があり、その横のスペースはテントを張ることもできます。

東かがわ市のコワーキングスペース 「ぶり〜ずWORK」について

坂本 「ぶり〜ずWORK」は東かがわ市引田の酒蔵をリノベーションしたコワーキングスペース。讃州井筒屋敷など歴史あるまち並みの中にあります。「ゲストハウスまりん」に併設しているので宿泊も可能。海が近いので釣りを楽しむこともできます。名前は引田の町が風の港と呼ばれていたため風と、特産の引田鯛(おぼろ)をかけて「ぶり〜ず」で、英語の「WORK」は海外の方が見てもここが何をやる場所なのかイメージし易くするためです。

「ぶり〜ずWORK」を作ろうと思ったきっかけはなんですか？

坂本 以前、東かがわ市で市民と市長がまちづくりを一緒に考える「未来ワクワク会議」が開かれました。100人以上の市民が参加する大規模な会議です。その中で、「伝統工芸が体験できる場所がほしい」「気軽に集まることのできる場所がない」などの意見が出ました。市からも、「交流の場や、異業種が話せる場所がほしい」というお話がありました。その時から、地域の人が交流できたり、伝統工芸を体験できる場所があればいいなと思いました。地域の方とご縁で酒蔵を貸してもらえることがなり、それが実現しました。オープンする半年前くらいまでは、東かがわ市に住み続けるとは思っていませんでした。もちろん任期後も関係人口として関わりを持つ予定でしたが。

定住しようと思ったのはなぜですか？

坂本 この場所を貸していただけになったのがきっかけです。国際協力の仕事も考えましたが、今は娘のようなもんですから。「どでカポチャ」という小豆島から巨大なカポチャをハロウィンに持つてくるというイベントも思い立ってすぐ実行しました。「どでカポチャ」の種は現在現役の地域おこし協力隊が引き取って畑で育ててくれています。これも坂本さんがいたからできたことで、坂本さんは「出会いの女神」です。

当時の担当職員 工藤さん

坂本 工藤さんは一番の理解者でした。基本的に書面がなくても事後報告でいいようにしてくれていました。

工藤 以前は地域おこし協力隊を臨時職員のように思っていました。部分があり、隊員の定着率も低かったです。それではだめだということと、本人がやりたいことと、地域がやりたいことがマッチしていることをやってみようと思いました。

坂本 いい意味で放任主義でした。定例会はありませんでしたが、報告・連絡・相談は適宜していました。地域での英会話教室を開く活動も工藤さんから提案してもらいました。

「ぶり〜ずWORK」以外のお仕事は？

坂本 地域の方が紹介してくれた手袋会社さんの翻訳のお仕事や学校の英語支援員、月一の地域でのキッズ英会

「ぶり〜ずWORK」の利用者は？

坂本 フリーランスの方用にオープンをしました。実際は様々な方に利用してもらっています。例えば事務所が狭いからテレビの取材の際に利用してもらったり、リモートで授業を受けている大学生もいます。また、東かがわ市に仕事で県外から来られている方たちにも利用してもらっています。

「ぶり〜ずWORK」をどんな場所にしていきたいですか？

坂本 地域の人たちはもちろん、地域外の人たちとも交流ができ、異業種交流もできる場所。人が集まる場所になってくれたらいいなと思っています。

ぶり〜ずWORK
香川県東かがわ市引田2245-2
定休日/土日祝 (水曜日は定額制のお客様のみご利用可能、週末利用をご希望の方はご相談ください)
価格/9:00~13:00/13:00~17:00 ¥770 1日 ¥1100
[e-mail] breeze@work2021@gmail.com
[FB] https://www.facebook.com/breeze@work
[Instagram] https://www.instagram.com/breeze@work/

香川の職人魂を燃やす人



香川県
三木町

得丸 成人さん

Naruhito Tokumaru

ものづくりやデザインには、一緒に仕事をする人の「共感と信頼」が必要だと話す得丸さん。

取材日も地元企業やものづくりに関わる人達が得丸さんのもとを訪れていました。会議室ではなく立ち話で始まる打ち合わせ。得丸さんの飾らず率直な物言いは、自然に周りの人の意見を引き出す良い空気感を作っていました。

香川県三木町井戸の住宅と田園に囲まれた場所に「IDOMALL (井戸モール)」という地域の小さなモールがあります。井戸モールは、「まんじゃーれ」というレストランの「まんまるシエ」というマルシェをきっかけに始まりました。そこから徐々に集まる人も増え、まんまるシエのメンバーも継続的にマルシェをやりたいという想いが強くなり、IDOMALLをつくることになりました。IDOMALLには、新鮮で美味しい旬のお野菜やシェフたちがつくるお惣菜、お菓子にパン。素材にこだわったラーメン屋、本格的な日本料理店、そして小さな雑貨店にキッチン付きレンタルスペースがあります。雑貨店「KOTOMATH FURIKAKE」を奥さんと運営するのは得丸成人さんです。今回は、得丸さんの「ものづくりへの想い」や「地域で働くこと」についてお話を伺いました。

ものづくりへの想い

「ものづくりをはじめたきっかけはなんですか？」

きっかけは瀬戸内国際芸術祭で、カメラ好きの観光客たちが皆黒のカメラストラップを付けているのを見たとき、「オリジナルのストラップがあったらもっと面白いし需要があるのでは」と考えオリジナルのストラップを作り始めたことです。革を一つ一つ手染めしたカラフルなカメラストラップは、今ではお店の看板商品です。



思いました。やはり現場に足を運ぶことはとても大事です。

地域で働くこと

「なぜ香川県でもものづくりをしていますか？」

地元だからというのが一番です。香川県立高松工芸高校を卒業した後、国内外でグラフィックデザインや映像演出の仕事をしていました。東京や大阪などの都会に出ることに必要性を感じませんでした。東京だとむしろ自分が埋もれてしまう。それなら、マレーシアやシンガポールなどもっと視野を広げて仕事をしようと思いました。「外の人を巻き込んでどういう文化にしていけるか」ということを考えています。これは広告業界にいる自分の経験から来ているものですね。後は、材料も自分で調達するため、生産者と直接やり取りができる近隣のものを使いたいと思っています。獣害駆除で捕れた猪や鹿の皮の多くが捨てられているため、これを利用して革製品をつくりたいと考えています。日本では傷があるものは売れませんが、一点物と考えたら傷も個性ではないでしょうか。SDGs（持続可能な開発目標）も意識していて、「本来は捨てられてしまうもの」を利用したいと考えています。



香川県高松市にある「福家写真館」と写真館オリジナルストラップ制作の打ち合わせを行っている様子。



最近ではコロナ禍の影響でクライアントの予算が減少し、クオリティが保てなくなってきたことや、想いを共感してもらえない依頼を受けなくてはいけない状況から、「自分達で開発から責任を負えるものづくりがしたい」という想いが一層強くなりました。一緒に共感できて信頼できる人と仕事をするようにしています。使い勝手がよく、他と被らない、職人の歴史やストーリーがある「売り方を考えたデザイン」を心がけています。

また、現場を見ることを大切にしています。写真やインターネットから見るのできる情報だけでは分からない情報が現場にはたくさんあります。「セトウチレザ」のWEBページのデザイン制作を担当したときも、現場に足を運びました。夏場の暑い倉庫でむせぶくらの腐敗臭や皮脂や毛がついた生の皮は重く、ドラムに入れる仕事は若くてもきつい重労働です。そんな環境を苦とせず熱心に働く若者達を見て、応援したいと

香川県の技術力

「香川県のものづくりについてどう考えますか？」

香川県には、世界に誇れる技術があると思います。OEMでもものづくりをしている職人さんは、自分の技術が素晴らしいことに気が付いていない場合が多いです。技術力が高いため、複雑で手の込んだものでもないと売れないと考える職人さんいますが、シンプルで

もオリジナリティーや他との差別化ができていないものを買いたい手は求めていると思います。PRだけの人には任せられるのではなく、生産者がストーリーを語り、魅力を伝えられるようにしたいです。「世の中に見つけてもらう」ものづくりを共感できる人達と行い、「FURIKAKE」を世界で通用するブランドにすることが目標です。



IDOMALL (井戸モール)

〒761-0823 香川県木田郡三木町井戸2316-4
<https://idomall.net/>

FURIKAKE WORK



「かがわ里海の幸」冊子撮影、デザイン CL 香川県庁



[2019] KOMINO RICE [PACKAGE] CL 山南営農組合



[2019] Miki Town SHISHIMAI PJT [四十四 Brand] CL 三木町役場

PROFILE 得丸 成人さん

「FURIKAKE」代表 / ヴィジュアル・グラフィックデザイナー / アートディレクター
グラフィックデザインからプロダクトデザイン、映像演出などを手がけるマルチクリエイター。VJとして国内外で活動した後、自身のプロダクトブランド FURIKAKE を2013年に発足。瀬戸内デザインアワード2019にて、グランプリシルバー受賞（江本手袋のブランド「佩」アートディレクション）。
<https://furikake.design/>
「瀬戸内工芸ズ。」部員 <https://setoco.jp/>



私がオススメします!



綾川町地域おこし協力隊
金盛 友彦



高鉢山の麓、地域住民が集う 西分公民館

私が活動している西分地域では、高鉢山、風穴散策をはじめ春には枝垂れ桜を見に多くの人が訪れます。西分公民館ではクラブ活動が盛んで、特に竹クラブが作成する熊手は人気があります。地域の催事販売のみの取扱いですが、公民館には展示してありますので、お近くに寄られた際には、ぜひ手に取ってご覧ください。

香川県綾歌郡綾川町西分1377



私がオススメします!

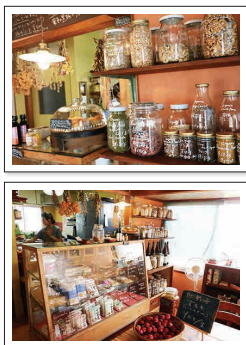


小豆島町地域おこし協力隊
田中 久美子

タネむすび堂



香川県小豆島町池田1088-5
不定休(詳しくはホームページをご覧ください。)
<https://tanemusubidou.com/>



カラダの奥から癒されるお店 タネむすび堂

ゼロウェイストをコンセプトに、店内で販売している調味料やドライフルーツなどの食材、重曹、洗剤は全て量り売り。自分に必要な量だけを持参した容器や袋に入れて買うことができます。自然の営みと調和をとりながら、買い物や食事が楽しめる隠れ家的な可愛いお店。店主のれいこさんが仲間たちに手伝ってもらいながら古民家をDIYしたという、素敵な内装がとても落ち着く空間で、雨の日には、シトシトと降る雨の音をBGMに、庭の木々や濡れて光る葉っぱを見ていると、気付かぬうちに瞑想状態に入れそう…。このお店の取り組みが、少しずつ波紋のように島中に広がっていけば良いと思っています。

私がオススメします!



直島町地域おこし協力隊パートナー
セキララ☆ちゃん

プロフィール

年齢/5(億)歳 性別/なし
好きな食べ物/直島タコ揚げ焼き、タコ飯
特技/瞬間移動。軽すぎるフットワーク。

Facebook Instagram Twitter



ワインと食事 おいとま

若き才能ある料理人の間借りレストラン「おいとま」は月に数回昼と夜、本家のお店(カフェサロン中奥)がお休みの時に開く。島の食材を中心に手の込んだ仕込み、アイデアに感嘆!陰ながら応援しています。写真は小豆島の隊員が視察に来てくれた時のもの☆

Instagram



お店の詳細はこちら



協力隊のオススメ香川歩き



歩くたびに新しい発見 **まちなかの小径**

普通寺市の中心市街地には、昔ながらの古いまちなみが今なお残っています。通行人同士がすれ違うのにも譲り合いが必要なくらい、細い小径。小径に沿って流れる水路。時々見かける猫たち。古井戸のポンプ。誰が見ても素晴らしいと思えるような絶景が広がるわけではないのですが、カメラを持って歩くと毎回新しい発見があります。写真が好きな方、ゆるーく歩くのが好きな方は是非。ただし、散策される際は住民の方々のご迷惑とならないよう、くれぐれもお静かに。



私がオススメします!



普通寺市地域おこし協力隊
白井 俊行

風景の写真はすべて
白井隊員が撮影した
もの。



私がオススメします!



まんのう町地域おこし協力隊
仁科 由恵



極上のベーグルが楽しめるお店

salut x salyu

サリュウサリュウ

まんのう町の特産品「まんのうひまわりオイル」を使ったメニューがあるお店「salut x salyu」のご紹介です。写真は「ひまわりカルパッチョベーグルランチ」です。手ごねにこだわる店長さん(とても明るい栄養士さん^^)のベーグルに、まんのうひまわりオイルで和えたサーモンカルパッチョをサンドした絶品グルメです。お野菜たっぷりのスープにたっぷりのフライドポテもついて大満足間違いなし!お店には絶品スイーツメニューもあり、こちらは別腹だといわんばかりにランチ後にスイーツを注文するお客様も多いとか!!「地域おこし協力隊です～」と言って来店すると、店長さんとの話が弾みますよ～(o^o)♪



香川県仲多度郡まんのう町炭所西792-2 tel.080-3167-7922
9:00~16:30(土日祝17:30)(ラストオーダー16:00(土日祝17:00)) 定休日/水曜日、不定休あり

無店舗型 手作り焼き菓子のお店

ツムグ菓子店

元協力隊の藤田さんが運営している小部キャンプ場内でスイーツを販売しているツムグ菓子店さん。生菓子や焼菓子が並びますが、僕のお気に入りのは島の柑橘類をたっぷり使ったケーキです。Facebookでも時々紹介するので是非ご覧ください! Facebook「土庄町地域おこし協力隊(林業)」



<小部supベースキャンプ場>香川県小豆郡土庄町小部303-3 毎週火・木・日 11:00~17:00
(小豆ふれあい産直市場でも販売しています。詳しくはInstagramをご覧ください。)

私がオススメします!



土庄町地域おこし協力隊
大西 歩

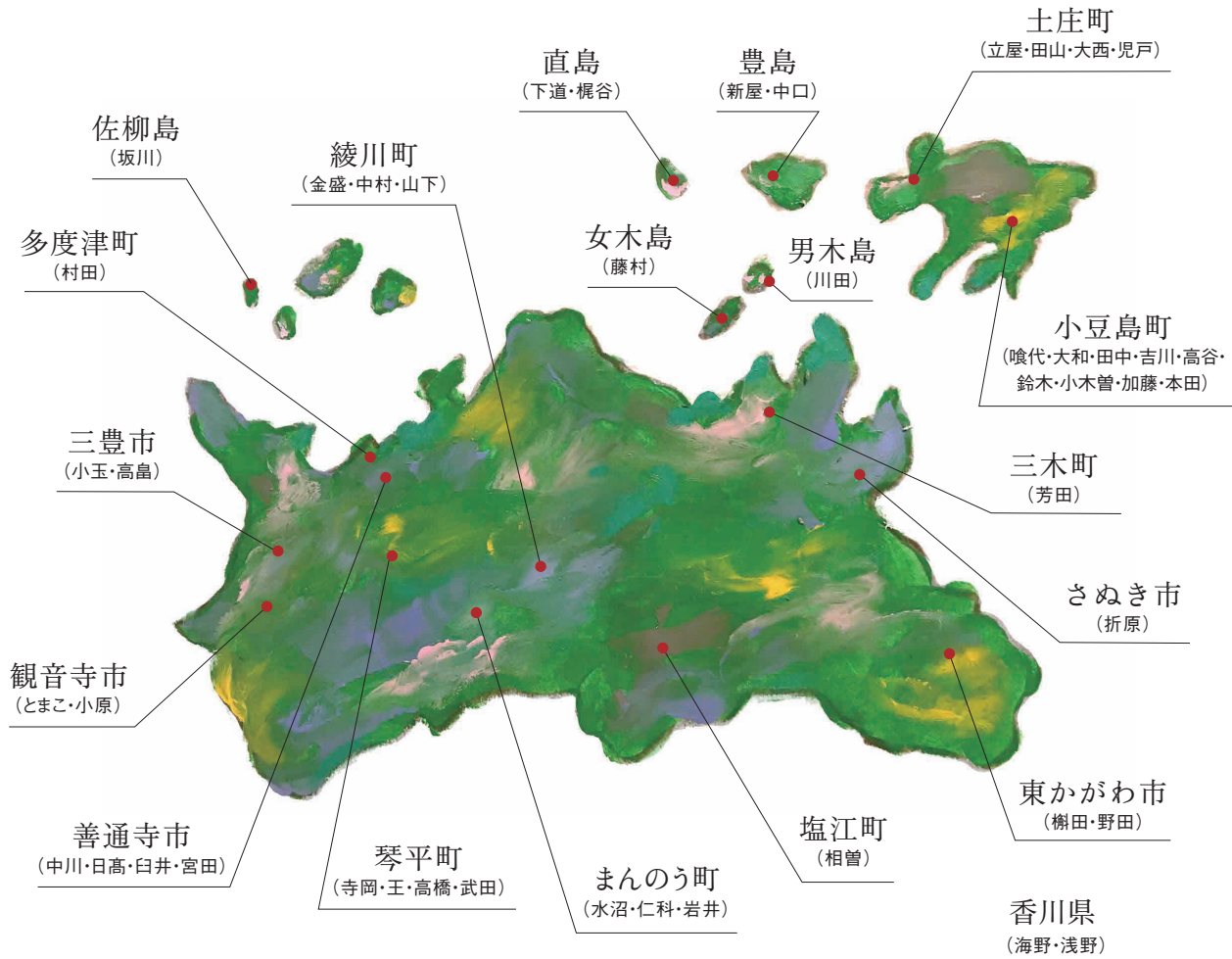


Instagram
@tumugushiya

KATSUDOU-MAP

地域おこし協力隊の活動場所

※2021年7月31日現在



県内で活躍する協力隊の
プロフィールが見れるよ!



協力隊の活動が
分かる活動日記のリンクが
載っているよ!

あとがき

今回は地域おこし協力隊と地域の方々との関わりを中心に、地域おこし協力隊の卒業生や担当職員さん、地域づくりを行う方々にも取材させていただきました。香川県の協力隊として市町の協力隊の皆様と関わる中で、地域の魅力や地域で頑張る方々を知ることができました。今回も取材にご協力いただいた皆様、一部写真・執筆・挿絵デザイン等にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

香川県の絵・裏表紙の絵…本橋英里

さぬきの輪の活動

香川県では、協力隊同士や行政担当者、OB・OGとネットワーク形成のため、活動報告会や研修企画、交流会を通じて学びの場を共有しています。

先輩から学ぶ

さぬきの輪 OB・OG会

徐々に香川県でも増えてきたOB・OG。任期後も今まで築いてきたネットワークを活かせるよう、交流会を通じて新旧協力隊の輪を広げます。頼りになる先輩方と、卒業後も会える貴重な機会です。



行政予算を学ぶ

さぬきの輪 そろばん教室

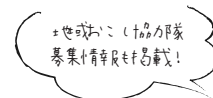
「予算っていつ決まるの?」「活動費ってどんなことに使えるの?」「行政予算って分かりにくい!」そんな地域おこし協力隊の声にお応えして、年に1度協力隊の予算について皆で考える「さぬきの輪のそろばん教室」を開催しています。※今年は開催しておりません。



活動地域から学ぶ

さぬきの輪の集い

活動地域の枠を超えて、月に1度のペースで活動場所の視察を行う「さぬきの輪の集い」。現役隊員の活動場所を訪ね、活動内容や意見交換を実施。行政担当者も参加し様々な活動をヒントに互いに共有しあいます。



地域おこし協力隊
募集情報も掲載!

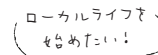


地域おこし協力隊
ポータルサイト



さぬきの輪

香川県の地域おこし協力隊情報はコチラ



ローカルライフを
始めたい!



かがわ暮らしあわせ



香川県に移住をお考えの皆さまに



移住フェア
などの情報を
GET!

塩江温泉鉄道（ガソリンカー）

香川県高松市南部の塩江町には、仏生山く塩江間16・1km間を結ぶ鉄道がありました。

塩江温泉鉄道の歴史は、昭和3年（1928年）、阿讃県境と塩江温泉の開発、そして旅客誘致のために大西虎之助の主導で設立されたことから始まります。これに並行して温泉旅館「花屋」が開業され、塩江が観光地として賑わうようになりました。

昭和4年（1929年）から12年間、観光客や地元の人たちの足となって活躍しましたが、昭和16年（1941年）、戦争の影響でガソリンの使用制限を受け、廃線となりました。

車両はほとんどが一両編成で運行していました。長さ8m、幅2・5mの小型で40人乗りです。車体の色は「ハイカラなグリーン」。溪谷を走るため、イタリアの路面電車を模倣し、ドアから前方が強く絞られた形でした。

台車は半鉄製片ボギー式だったことから、「ガッタタン」「ガッタタン」という音がしていたといえます。

旅客鉄道としては珍しいガソリン駆動エンジンを用いていたことから、沿線住民に「ガソリン」や「ガソリンカー」と呼ばれ親しまれていました。

車体の大きさに対してエンジンが小さいため、時折途中で止まってしまったといえます。車両の前後を入れ替えることはなく、前進、後進の両方に動く珍しい仕組みでした。

珍しい特徴を持つことや、活躍した期間の短さから「幻の鉄道」と呼ばれていてファンが多くなります。

平成30年（2018年）からガソリンカー復元プロジェクトとしてガソリンカー復元実行委員会の活動が始まり、現在も活動は続いています。

取材協力 一般社団法人トビカ、ガソリンカー復元実行委員会 村山淳さん

